

ケニアでの研修を終えて

私がこのスタディーツアーに参加した主な理由は視野を広げるためというものでした。日本から出たことのない私は日本の文化しか知らず、海外の文化など全く体験したことはありませんでした。初めての海外がケニアというのは多少不安な気持ちもありましたが、無事スタディーツアーを終えた今、参加することができ本当に良かったと思っています。

ケニアでの滞在中特に印象に残っているのは5泊6日にわたる農村でのホームステイです。最初は農村の生活に対して、トイレやお風呂はどんなものだろう、食事は口に合うだろうかなど多くの不安がありましたが、非常に充実した生活を送ることができました。ホストファミリーの方々はとても優しく、毎日なんらかのイベントを用意してくださっており、ケニアの農村文化に多く触れることができとても良かったです。農村のホームステイ中道なおしにも参加することができました。道を掘ったり、土のうに土を詰めて運んだり道なおしは本当にハードワークでしたが、朝から多くの村人が集まり精を出し働き、道が完成したときの達成感は何とも言えないものでした。ケニアの農村部の道は街中のように舗装されておらず、雨が降ると道がぬかるんでしまい車の通行が困難になってしまいます。オフィスから村へ向かう時も車がぬかるんだ道にはまってしまうというハプニングが起きてしまい、大変時間を取られました。村と町(市場)をつなぐ道は村人にとって非常に重要なものです。村の命ともいえる道を村人でもおこなうことのできる簡単な技術でなおすこの方法はとてもすばらしいと思いました。道なおしの後は近くの小学校に訪問しました。ケニアの子供たちはとても明るく笑いが絶えませんでした。後日、プリウエディングパーティーにも連れて行ってもらいました。歌ったり、踊ったりとみんなとても楽しそうでした。また教会にも行く機会があり、そこでキリスト教について多くの話を聞くことができました。あなたはどの宗教を信仰していますか、神様の存在を信じますか、と聞かれた時は困ってしまいました。今まで神様の存在について深く考えたことがなかったからです。特に宗教は信仰していないと答えると、とても驚かれました。日本のように多くの人が宗教を信仰していないことは珍しいことのようにです。ケニアでの農村生活を送るにつれ、ケニアの素晴らしさをどんどん知ることができました。村の人たちはとても親切でいつも笑顔で接してくれました。文化の違いに戸惑うこともありましたが、本当に素晴らしいホームステイとなり、またこの村に必ず戻ってこようと思いました。

道普請人のオフィスでは喜多さんからケニアや国際協力に関する貴重なお話をたくさん聞くことができ、とてもためになりました。「いつまでもあると思うな親と金、ないと思うな運と才能」というお言葉はとても印象的でした。そして別れを惜しみながら、エルドレットをたち、ナイロビへと向かいました。ナイロビではマトマイニという

孤児院で宿泊させていただきました。孤児院の子供たちは帰省の時期ということもあり、あまり大人数ではなかったのですが、とても賑わった孤児院でした。最初は子供たちとの間に少し距離があったのですが日がたつにつれ仲良くなることができ、最終日の夜には大騒ぎして一緒に遊びました。マトマイニでは孤児院だけでなくシングルマザーのための職業訓練もしており、フェルトでストラップやぬいぐるみを作っていました。ケニアでは日本とは違いシングルマザーの方が多くいるようで、そういった人たちのための職業訓練がとても必要とされているそうです。マトマイニ滞在中 JICA と NGO の会議を見学させていただきました。日本から遠く離れたケニアでこんなにも多くの日本人が一生懸命ケニアのために働いているということを知りました。日本とは全く異なる環境を持つケニアで生活し、ケニアのために働く人々は私の目にとってもかっよく映りました。マトマイニで一番印象に残っているのはヤギのと殺です。今まではお客さんにはと殺を体験させることはなく、お肉だけを振舞っていたのですが、命をいただくとはどういうことなのかを考えていただくということでお客さんにもと殺を体験してもらうことにしたそうです。私は直接包丁でヤギの首を切るということはせず、近くで見守っていたのですが、それでも涙をこらえることができませんでした。常々命の大切さについて考えてはいたのですが、直接命をいただく場面は見たことがなく、今回このような貴重な体験をさせていただき本当に感謝しています。もっと多くの人がこのような経験をすることができたら、食べ物が無駄にする人も減るだろうと思いました。最終日にはスラムに訪問させていただきました。スラムは考えていたよりもずっとごみごみしており、悪臭を放つ所もありました。しかし、そこに住む人たちは村の人たちと同じ笑顔をしていました。子供たちは楽しそうにはしゃいでいました。スラムに住んでいるから不幸であるといった考えは間違いであるということに気づかされました。私にとって日本での生活が当たり前であるように、ここに住む人たちにとってはここでの生活が当たり前なのだということに気がきました。スラムに住む人たちは私たちと何も変わらない、彼らにとって当たり前の生活を送っているだけなのです。先進国の人たちが押しつけがましく無理にスラムを変えていこうとするのではなく、ただ彼らが不便だと思うことを少しずつ改善していけばいいのだと思いました。私的な旅行ではきっとスラム訪問などできないので、この機会を通してスラムを訪れることができ本当に良かったです。

今回のケニアでのスタディーツアーを通して視野を広げるという目的を果たすことができました。日本とは全く異なるケニアでの生活は新鮮かつとても刺激的なことばかりでした。エネルギッシュなケニア人の方々、ケニアで活躍する日本人の方々から多くのエネルギーをもらうことができました。今回ケニアで体験したことを今後の人生に十二分に活かすことができたらなと思います。

このような貴重な機会を与えてくださった木村先生、ケニアで出会った多くの方々、心から感謝を申し上げます。